

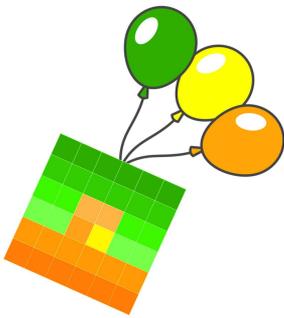
2020年度

一般社団法人

異才ネットワーク

活動報告

2020.4~2021.3



異才ネットワーク

since 2018

ちょっと気になる
子どもを持つ親の会 WAKUWAKU

since 2018

生きづらさを抱える
ギフテッド・2Eの親の会 SHINE

since 2018

大人の発達障害の会 IROIRO

since 2018

大津オルタナティブスクール トライアング

since 2019

不登校の子どもたちが運営する
自家焙煎珈琲のお店Cafe Ambitious

since 2019



もくじ

1. ごあいさつ
2. 異オネットワークのミッション
3. 異オネットワークのあゆみ
4. 事業報告
 - ①大人の発達凹凸の会 IROIRO～イロイロ～
 - ②ちょっと気になる子どもをもつ親の会 WAKUWAKU～ワクワク～
 - ③生きづらさを抱えるギフテッド・2Eの子をもつ親の会 SHINE～シャイン～
 - ④ 大津オルタナティブスクール TRIUMPH～トライアンフ～
 - ⑤ 不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲の店 カフェ・アンビシャス
 - ⑥ セミナー事業
5. 決算報告（損益計算書・貸借対照表）
6. ご協力をお願い

1. ごあいさつ

はやいもので、2018年に市民活動団体として異オネットワークが誕生して、3年が過ぎました。もともとは、学習障害をはじめとする発達障害を抱える子どもをもつ親の会として、学校との関わりや子どもの日常生活での困りごとを親同士が交流し、話し合うことを目的に、似たような困り感を持つ保護者が集まり「多様な特性をもつ人たち一人ひとりが尊重され、力を発揮できる社会を目指す」ことを理念とし、設立いたしました。

「異オ」という言葉には、文字通りの「際立って優れた才能」という意味だけではなく、まだ開花する前の何かはわからないけれどもきらめくものを持ち、一人ひとりが生き生きと取り組めるものを追い求めていく象徴としての意味を込めて名付けました。

その後、異オネットワークは法人化を経て、不登校の子どもたちのためのオルタナティブスクール「トライアンプ」や大人の発達凹凸の会「イロイロ」、生きづらさを抱えるギフテッド・2Eの子をもつ親の会「シャイン」、不登校の子をもつ親の会「ワクワク」など、困り感をもつ当事者やその一番近くにいる保護者に寄り添う活動を大切にしております。

トライアンプでは不登校の子どもたちが生き生きと自分の好きなことに打ち込み、元気になる様子が見られたり、親の会ではなかなか周りにわかってもらえない困りごとを話し合い、それがホッとできる時間となったり、先に行く保護者の経験談を聞き、参考にされる場面も多く見受けられます。私たちも活動をやっていてよかったと思える瞬間です。

設立当初から一貫して「多様性を認め合える社会の実現に向けて」を理念に活動してまいりましたが、この3年間で少しでも社会が変わったのか、大きく「社会」と捉えなくとも、自分の身のまわりのほんの少しの人だけにでも、私たちの理念が伝わったのか、3年を過ぎた今、この報告書を通じて活動を振り返りたいと思っております。

新型コロナウイルス感染拡大の中、社会全体が今まで以上に精神的にも経済的にも余裕がなく、将来への不安が募る毎日を過ごされている方も多くおられると思います。

私たちの活動が、少しずつ輪を広げ、次第に大きな渦となり、生きづらさを抱える人たちがよりよく過ごせる日々が訪れることを願ってやみません。

今後とも異オネットワークの活動にご支援ご鞭撻いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

一般社団法人 異オネットワーク
代表理事 谷川 知

2. 異オネットワークのミッション

多様性が認められる社会の実現へ

見えない障害といわれる発達障害（神経発達症）…

当団体は、発達に偏りがあり、できることとできないことの差が大きく、周りの人や環境との間に様々な困りごとが起き、生きづらさを抱える人たちやその家族の会として発足しました。

発達がアンバランスな人たちは、その凸凹ゆえにみんな一様に同じことを求められる学校や会社、社会にフィットせず自己肯定感を損ないがちで、不登校や引きこもりになる場合も多くあります。また、突出した才能をもつギフテッド、タレンティッドや発達障害との併発である2E（Twice Exceptional：二重の特別支援を要する子ども）の存在は日本においてはまだまだ知られてはおらず、適切な支援にたどりつけません。

私たちは、多様な特性を持つ人たちが社会の中で尊重され、ひとりひとりが力を発揮できるダイバーシティ社会の実現を目指し、発達障害について社会のすべての人に啓発すること、生きづらさを抱える子どもたちや保護者そしてすべての人が安心安全な環境の中で過ごせることを願って活動しています。

一般社団法人異オネットワーク

法人役員

代表理事 谷川 知

理事 直江 和子

理事 伊藤 いつか

3. 異オネットワークのあゆみ

- 2018年 2月 市民活動団体 異オネットワーク設立
- 4月 セミナー「ボクが学校に行かなかったワケ」「発達凹凸をもつ人たち」
どうだの会・茶話会
- 8月 セミナー「不登校は不幸じゃない in 大津」
- 9月 セミナー「よくわかる発達障害の基礎知識」
- 2019年 3月 発達障害当事者の座談会開催
- 6月 (一財)滋賀県民間社会福祉事業職員共済会の地域共生型社会推進事業助成金受託。フリースクールの開校に向けて準備を始める。
- 9月 学校にフィットしない子どもたちのためのフリースクール TRIUMPH 開校
- 2020年 3月 トライアンフ 第1回ワクワク研究発表会開催
- 4月 一般社団法人化
新型コロナウイルス感染拡大で休校（オンライントライアンフ開催）
- 6月 トライアンフ週2回開校へ
- 8月 セミナー
「不登校を知る 2020
～コロナ禍の今、親として、支援者として子どもに何ができるか」
- 10月 カフェアンビシャス明日都に出店（以後毎月第1・3・5金曜日開催）
- 12月 セミナー
「ギフトィッドの子どもの将来を考える
～学校にできること、親にできること～」
- 2021年 3月 セミナー「学習障害を知る～学びの違いをもつ人たちの困り感と支援」
トライアンフ 第2回ワクワク研究発表会開催

4. 事業報告

① 大人の発達凹凸の会 IROIRO～イロイロ～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
5月23日(土)	10名(うちスタッフ3名)	Zoom開催	
6月28日(日)	24名(うちスタッフ3名)	明日都浜大津+Zoom開催	Zoom参加 2名 会場参加 22名
8月23日(日)	7名(うちスタッフ3名)	明日都浜大津	
10月25日(日)	18名(うちスタッフ3名)	Zoom開催	
12月20日(日)	12名(うちスタッフ3名)	明日都浜大津	
2月28日(日)	17名(うちスタッフ4名)	Zoom開催	
計 6回	のべ88名(うちスタッフ19名)		

ii 活動の目的

発達凹凸を抱える大人の方が集まり、お互いの特性を尊重しながら、日頃の困りごとやその解決策を話し合える場を創り、発達障害の方の生きづらさの緩和につなげる。

iii 対象者

- ・発達障害の診断がある人
 - ・発達障害の診断はないが、自分でそうかも…と思っている人
 - ・発達障害グレーゾーンと思われる人
 - ・生きづらさを抱える人
- 18歳以上（興味のある18歳未満の方も保護者の承諾があれば参加できます。）

iv 活動内容

5～6名のグループに別れて日常の困り事などを話し合う。模造紙を使用し、意見を書き記しながら、最後に代表者が発表を行い、参加者全員で共有化する。

各グループに進行役のファシリテーターを必ず1名をおく。安心・安全な場を提供する為にルール(他者を否定しない、自分の意見を押し付けない等)を明確化し、ルールに反する行動があればファシリテーターが上手に軌道修正を図る。

新型コロナウイルス感染防止のため、一部Zoomによる開催とした。それにより、全国からの参加者が集まった。Zoomにおいてもブレイクアウトセッションを設けることで、少人数での話し合いが可能となり、対面開催と同様に各自が自分の意見を話す時間が十分にとれるようにした。

v 活動の効果

- ・ 「同じ悩みを抱えているのは自分だけじゃなかった」と気付く事により、安心感を得ることができた。孤独からの解放や仲間意識が自然と芽生える効果
- ・ 発達障害に関する病院・薬・福祉制度等の知識の獲得。
- ・ 自分の考えと異なる多様な価値観を知る事による、自らの認知の歪みへの気づき。
- ・ 上記の効果による生きづらさの低減。
- ・ 総じて自助の場（セルフヘルプグループ）としての役割を果たし、安心安全な場として気兼ねなく自分の思いを伝え、他者の話を聞く場として有効に機能した。

vi 参加者からの感想

- ・ 誰の意見にも否定せず最後まで聞く、という目的をまず冒頭に参加者皆で共有できて良かった。我々凸凹は人の話を最後まで聞くことを忘れがちだから（笑）こうしたオンラインでの会話は訓練にもなり得ると思った。
- ・ LDの方の話を直接聞いたのが初めてだったので個人的には興味深かったです。
- ・ 人生何が強みになるのか、わからないものだなと思いました。
- ・ しんどくなったり辛くなったら自分に素直になって立ち止まったり休憩することも必要なんだとおもいました。
- ・ 生活していれば噛み合わない人とも関わることがありますが、自分は自分、他人は他人という考えを常に持っていきたいです。
- ・ 当事者による「人暮らしの可否についてや、果たして遅刻は治るのか？、どうやって適職を見つけるか、親との関係などもテーマに話してみたい。
- ・ 進行役のスタッフの方が、いろんな方にバランス良く声を掛けてくださり、みんなが話せて良かったです。
- ・ 遠方からの参加でしたが、他地域の福祉・支援などの状況を共有していただけるのはとても貴重な機会だと感じました。
- ・ 自助会とても楽しかったです！
- ・ 少人数でのグループ交流は、色んな方の意見がより深く聞けるので、共感することもあり、とても参考になりました。
- ・ スタッフさんが仰って下さったように人との違いを認めていける人間に、少しずつ近づいていきたいです。

② ちょっと気になる子どもをもつ親の会 WAKUWAKU～ワクワク～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
5月29日(金)	12名(うちスタッフ4名)	大津百町館	
8月10日(土)	14名(うちスタッフ7名)	明日都浜大津+Zoom開催	不登校セミナーと同時開催
9月24日(木)	10名(うちスタッフ3名)	大津百町館	不登校経験者の留学体験談と同時開催
3月13日(土)	10名(うちスタッフ2名)	大津百町館	オルタナティブスクール研究発表会と同時開催
計 4回	のべ46名(うちスタッフ 16名)		

ii 活動の目的

発達障害や不登校、行き渋り傾向など困り感のある子どもを抱える保護者等が集まり、日頃の困りごとやその解決策を話し合える場をつくる。子どもの生きづらさの緩和につなげ、保護者の息抜きを図る。

iii 対象者

- ・発達障害の診断がある子どもをもつ保護者
- ・発達障害グレーゾーンと思われる子どもの保護者
- ・不登校や行き渋り傾向の子どもの保護者
- ・その他子育てで困っていることがある保護者

iv 活動内容

- ・日ごろ困っていることを共有する。
- ・経験者からの経験談を聞く。
- ・進路先、医療や保健との付き合い方、学校とのやりとり等の情報交換
- ・テーマを設けて、勉強会を行う。
- ・お茶を飲みながらの忌憚のないおしゃべり。

v 活動の効果

大津百町館の大広間で行った親の会は、とてもゆったりとした時間が流れていた。静かな落ち着いた町家では、保護者の方もリラックスして日ごろの困りごとなどをお話して下さった。

勉強のことや学校との連携、発達特性のことなど様々な話題について話し合いながら、保護者の方の情報交換の場になっている。

また、不登校になりたての子どもをもつ保護者の方は、先に行く方からのアドバイスも受け、同じ立場同士、共感しあうことで保護者の孤立を防ぐ役割を果たしていると感じる。

日ごろ、不登校の子どもとの閉鎖的な生活をしている保護者の方が多いので、このような親の会で息抜きをすることは、保護者のストレス発散にもつながっているようである。

vi 参加者からの感想

- ・ 子どもが、不登校であることに後ろめたさを感じずにすむ場や理解ある大人との出会いができればいいなと思います。
- ・ 不登校があって当たり前の時代になって、もっと学びの選択肢が増える時代になっていけばなと思います。
- ・ 気を遣わずに安心していられる家とは違う場所、及び楽しめる催し、フリースクールなどの情報が知りたいです。
- ・ 不安がやわらぎました。ありがとうございました。
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 子どもとの接し方を改めるよいきっかけとなりました。
- ・ 優しさ溢れるお話、ありがとうございました。頭では分かっているけどなかなか続けることが難しい声掛けの大切さを改めて認識できました。
- ・ なるべく目を合わせたり、その過程を褒めたり、マッサージなどスキンシップをとりながら、中学卒業の年までは焦らず関わっていただけたらと思います。
- ・ 同じ学年の保護者の方とお話して、色々情報交換でき、共感しあえ、良かったです。
- ・ 同じ思いの人がいることが分かりました。
- ・ オンラインでの開催なら、もっと参加できるかもしれません。

③ 生きづらさを抱えるギフテッド・2E の子をもつ親の会 SHINE～シャイン～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
5月9日(土)	11名(うちスタッフ4名)		オンライン開催
7月11日(土)	9名(うちスタッフ3名)	大津百町館/オンライン	会場5名、オンライン4名
11月14日(土)	19名(うちスタッフ4名)	明日都浜大津/オンライン	会場12名 オンライン7名
12月5日(土)	10名(うちスタッフ4名)	明日都浜大津	会場10名
1月9日(土)	12名(うちスタッフ3名)	オンライン	オンライン開催
計 5回	のべ61名(うちスタッフ18名)		

ii 活動の目的

生きづらさを抱えるギフテッドや、学習障害や ASD などの発達障害を併せもつ 2E の子どもは、学校や社会の中で困り感が強く、不適応をおこしがちである。そういった特性ある子どもを育てる保護者が集まり、日頃の困りごとやその解決策を話し合ったり、研修することにより、子どもへの関わり方について学びを深め、子どもの生きづらさの緩和につなげたり保護者の息抜きを図ったりする。

なかなか日常生活の中では、周りに困りごとを理解されたり、相談できる人がおらず、孤独になりがちなため、同じような特性をもつ子どものいる保護者同士の関わり合いを重視する。

iii 対象者

- ・ 生きづらさを抱えるギフテッド
- ・ 2E（ギフテッドと発達障害を併せもつ特性）や、学校や社会の中で困り感の強いお子様を育てる保護者
- ・ ギフテッド、2Eともに医師による診断がない場合が多いため、診断や IQ の数値に関わらず、特性を理解したり、子どもがより健全に生きていくための方策を話し合いたい保護者も含めて運営する。

iv 活動内容

新型コロナウイルス感染拡大にともない、リアルな会場を設けての開催から Zoom による開催に変更した。それに伴い、全国からの参加者が増え、活発な意見交換、情報交換が可能となった。

Zoom ではブレイクアウトセッションを設け、少人数で話し合うことで、全員が参加できるように配慮した。

iv 活動の効果

- ・ 周囲に理解されにくいギフテッド・2Eの子どもの子育てを仲間とともに行う場とする。
- ・ 日常生活での困り感について話し、親同士の交流の中で、子どもが健全に成長できるよう助言を得たり、気づきを促す。
- ・ 読書会を通じ、ギフテッド・2Eに関する知識を習得する。
- ・ ギフテッドの才能面の伸長のみでなく、学校など社会的な場における困りごとをどうするか、不適応な場合の過ごし方、親の考え方など経験者、当事者とともに話し合い、ギフテッド、2Eの子どもたちが社会的に自立できるように支援する。

v 参加者からの感想

- ・ 経験者の方と直接お話しできたのは本当に参考になりました。
- ・ 当事者同士で、相談形式で進められるのが良かったです。
- ・ 今までギフテッドの事は多少知ってましたが詳しく知れてよかったです。当事者の親の話も聞いてよかったです。
- ・ 子供同士が同い年で、似た趣味をもつ方と繋がりができたので嬉しいです。
- ・ 異年齢のお子さんに関する話を聞いたこと、貴重に思いました。
- ・ 大変貴重な機会を頂きありがとうございました。2Eやギフテッドのお子さんをもつ保護者のみなさんのお話、とても参考になりました。
- ・ いわゆる天才秀才の意味のギフテッドではなく、2E寄りの話が沢山聞いて、モヤモヤしていた気持ちが晴れました。
- ・ 子供の年齢を元にグループ分けして下さっていたことが良かった。あと、話し合いの中で「ギフテッドに関する情報がない！理解がない！だから、自分が勉強するしかない！って思い勉強する。そしたら、賢くなれるんだけど、そうなる、今度は周囲との認識の違いに更にガックリする！」と言う言葉がありました！それを聞いただけでも、この会に参加して良かった!!って強く思いましたし、自分の心の拠り所となりました！まだまだ、話足りなかったし、話を聞いていたかったです！
- ・ わからない人には全く理解してもらえず、今まで気軽に話せる人がいませんでしたが、理解してもらえると安心感のもとにお話しできて良かったです。
- ・ 当事者の方の話も聞いて、親子関係も垣間見れたので良かったです。羽目になる、など言葉遣いが絶妙です。ギフテッド子育て歴が長く、悩まれた末に出てきた言葉だと思いました。
- ・ 参加の皆さんに関しては、やはり高知能であるという事が、更に支援に繋がり難く、情報も不足し、大変困難な状況にあるのだという事がわかりました。

④ 大津オルタナティブスクール TRIUMPH～トライアンフ～

i 活動の概要

毎週水・金曜日 10:00～13:00 大津百町館にて開校。

のべ参加人数 522人 (子ども238人、スタッフ他284人)

ii 活動の目的

教育や福祉の有資格者や発達に特性のある子どもをもつ親がつくるオルタナティブスクールで、いじめや発達凹凸、その他の環境要因によって不登校となった子どもの安心安全な居場所、学びの場をつくる。

「エネルギーをチャージし、自らの学びへ」を念頭に、子どもの状態に合わせて、得意なことや興味のあることを軸に探求学習を行い、将来の精神的な自立を促す。

保護者や子どもの希望があれば、子どもが在籍する学校と連携し、子どもの育ちと学びをサポートする。

iii 対象者

不登校状態の小中高校生

iv 活動の内容

ボードゲーム、EQ(こころの知能指数)ワーク、BBQなど屋外活動、調理実習、遠足、教科学習、不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲のお店(後述)の手伝い等

v 所感および活動の効果

2019年9月より、浜大津の丸屋町商店街にある大津百町館を拠点に活動を開始した。

2020年4月からの大津市立学校の休校の影響からか、当スクールにも日中の居場所についての問い合わせが増えたが、逆に開校当初から通っていた児童の中にはコロナ感染症からの不安で緊急事態宣言解除の後も外出ができにくくなった者もいた。

オンラインスクールも開催したが、児童生徒の特性によっては不向きなようで、つながりを持ち続けることの難しさを痛感する期間となった。

このような家から出られない児童生徒には、アウトリーチとして家庭訪問型の支援を行うようにしていった。

2020年6月緊急事態宣言解除後、感染症対策を徹底して活動を再開した。それぞれの性格、特性、希望に合わせて少人数でお話や勉強、遊びなどに取り組んだ。

また、町家のある商店街の地域の方の力をお借りして、刃物研ぎ体験をしたり、昆虫の専門家に来ていただき自然観察講座を行ったりした。好きなものを追求していくことは、子どもの知的好奇心を伸ばし、学ぶ意欲を湧き立たせると実感している。今後も来てくれる子どもたちの心に寄り添いながら、活動内容を工夫していきたい。

当スクールに通う子供達の中には、小学校や中学校卒業を控えた者もあり、進路相談にも応じている。特に、在籍する中学校の担任の先生とは、月に1回程度電話で様子や出席状況のやりとりをするようにしており、高校進学に向けて連携していく必要性を互いに共有できたように感じる。特性もあり、長らく不登校状態だった児童生徒が進路を前向きに考えられるには時間がかかるが、やはり丁寧に対話していき、本人の希望を引きだしていくことが肝要である。

8月後半より、子どもたちの身体の健康保持のために月1回ヨガ教室を開催している。地域のお寺をお借りし、地域住民の参加も可能として、できる限り子どもたちと地域の方々の交流もしていきたいと思っている。

10月以降は年度末に開催予定の研究発表会に向けての準備を少しずつ始めている。食の安全性や動物福祉など、それぞれの好きなこと、関心のあることの中からテーマを設定し、その課題に向き合う中で言語活動や理科的、社会的な学びを取り入れるようにしている。人前で発表するのが苦手な子どももいるが、作品の展示をしたり、受付や飾りつけをしたり、全員が何かしら自分の得意な分野での取り組みがができるようにしていきたい。

今年度から、当スクールではイェナプラン教育の考え方を取り入れて多様な学びを進めている。公教育とは違った形ではあるが、教科の学び（ブロックアワー）だけでなく、広く総合的な学び（ワールドオリエンテーション）を取り入れ、楽しく学ぶ中で少しでも心のエネルギーを溜め、自立に向けて前向きに生きられるようにサポートしているところである。

また、EQ（心の知能指数）の向上がこれからの時代に必要なことでありという思いから、子どもたちが自分自身の感情を見つめ、自覚し、その感情を表現したり、感情とうまく付き合っていくためのワークを取り入れている。

発達上の特性のある子どもは、最初はこのワークに拒否的であったが、長期的に続けていくと、このワークに対する態度も少しずつ変容しているように感じる。「わたしは優柔不断すぎる所があって、そこは直したいと思って努力している。」「あのう、家でこんなことがあったんですけど、聞いてもらえますか。」など、スタッフに信頼を寄せ、感情表出をするようになってきた。スクールを続けて来て良かったと思う瞬間でもあった。エネルギーがたまる中で在籍校に通う気持ちをもてるようになった児童もいた。実際に在籍校に通いながら当スクールを利用している児童もいる。いろいろな形の学び方があり、その中で子どもは確かに成長しているということを、子どもたちから教えてもらった。

⑤ 不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲の店 カフェ・アンビシャス

i 活動の概要

毎月第1・3・5金曜日 11:00～13:00 明日都浜大津市民活動センター前にてブースをつくり、出店している。

ii 活動の目的

別事業であるオルタナティブスクールの発展的課外活動として、本格自家焙煎のコーヒーをお客様に提供し、子どもたちのコミュニケーション能力や働く能力を育成し、生きる意欲を創造する。

iii 対象者

不登校状態の小中高校生

iv 所感および活動の効果

2020年10月より、明日都浜大津の市民活動センター様のご厚意により、センター前にブースを設け、試験的に自家焙煎珈琲のお店を出店。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、不安が強く外に出られなかった小学生がお店のお手伝いをするというミッションをきっかけに外に出るようになった。最初の頃は子どもたちがカフェ運営にチャレンジをすることを興味本位で見守っていたお客様も、次第とコーヒーの味を好んでいただき、リピーターになってくださるようになった。

学校に合わず、不登校状態の小中学生、合わせて5人程度が毎回カフェスタッフとして働く。はじめはお客様に商品を持っていくのも緊張していた子どもも少しずつ慣れて来て、お客様と会話を楽しめるようになってきた。このように、少しずつでも人と関わったり、自分が役に立ったという経験をするには、自立への大事な一歩だと考える。学校にはなじめなくとも、こうして地域で安心できる大人の見守りの中で勇気を出して働くことは、子どもたちにとって大きな学びであり、また保護者にとっても成長を目で確認でき安心感につながるだろう。

当事業は、不登校で自己肯定感が低下し、自分にとって「できること」があると感じたり、他者から感謝されたり、認められたりすることが乏しい子どもたちが、再び、やりがいや生きがいを感じ、生きる意欲を創造する大切な役割を果たすものだと確信している。

⑥ セミナー事業

i 活動の概要

開催日	セミナータイトル	講師	場所	参加人数 (うちスタッフ)
8月10日(土)	「不登校を知る2020～コロナ禍の今、親として、支援者として子どもに何ができるか」	岩澤一美先生	ふれあいプラザホール/オンライン	26名 (3名)
12月5日(土)	「ギフティッドの子どもの将来を考える～学校にできること、親にできること～」	角谷詩織先生	ふれあいプラザホール/オンライン	28名 (3名)
3月20日(土)	「学習障害を知る～学びの違いをもつ人たちの困り感と支援」	久郷悟先生 小崎大陽先生 早川友恵先生	オンライン	19名 (3名)
計 3回				のべ73名(うちスタッフ9名)

ii 活動の目的

多様性を認め合える社会の実現という当会の目的に照らし、さまざまな特性をもつ人たち、また昨今、社会的な課題となっている不登校について、多くの人に知ってもらうための啓発活動として、本セミナーを開催した。

iii 対象者

全国（Zoomによるオンラインセミナー）、近隣自治体の保護者、支援者など。

iv 活動の効果

- 「不登校を知る 2020～コロナ禍の今、親として、支援者として子どもに何ができるか」
不登校当事者への具体的な声掛けの仕方や支援の方法が理解できた。不登校をきっかけに子育てを見直す機会となり、今後の参考となるという保護者の声が多かった。
- 「ギフティッドの子どもの将来を考える～学校にできること、親にできること～」
ギフテッドの子育てについてわかりやすく解説いただき、生きづらく育てにくいギフテッド児の子育てについて参考になったという意見が多かった。ギフテッドについての理解とその対応方法を参加者と共有することで、適切な支援がすすんでいくことを期待したい。
- 「学習障害を知る～学びの違いをもつ人たちの困り感と支援」
学習障害についての説明、どのように見えているのか、学校でどのような配慮を受けられるのかなど、現状について話していただいた。目から入る情報が他の人と違うということで見えない障害として配慮されにくく、支援者や学校で勉強ができない、怠けていると取られることもあり、配慮が必要であるという認識を参加者にもってもらった。

5. 決算報告

損益計算書		(自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)	
		【単位:円】	
科目	金額		
(経常損益の部)			
経常収益			
受取寄付金	125,410		
受取会費	620,750		
受取民間助成金	1,279,000		
雑収入	69,520		
	経常収益計		2,094,680
経常費用			
事業費用			
給与手当	556,200		
通勤費	10,350		
印刷製本費	30,625		
旅費交通費	69,452		
通信運搬費	53,640		
消耗品費	238,374		
賃借料	161,702		
諸会費	6,000		
支払手数料	178,813		
新聞図書費	3,806		
広告宣伝費	78,100		
雑費	3,520		
	事業費用計		1,390,582
管理費用			
業務委託費	18,000		
通信運搬費	6,600		
修繕費	29,700		
支払手数料	330		
広告宣伝費	701,427		
雑費	0		
	管理費用計		756,057
	経常費用計		2,146,639
	経常利益		▲ 51,959
(経常外損益の部)			
経常外収益			
税引前当期純利益	0		
法人税、住民税及び事業税	0		
法人税等調整額	0		
当期純利益			▲ 51,959

貸借対照表

令和3年3月31日

【単位：円】

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金及び預金	10,625	未払金	237,456
未収金	360,000	預り金	9,276
その他	0	役員借入金	387,882
2. 固定資産	0	2. 固定負債	0
		負債合計	634,614
3. 繰延資産	212,030	(純資産の部)	
その他	0	一般正味財産	▲ 51,959
		代替基金	0
		その他	0
		純資産合計	▲ 51,959
資産合計	582,655	負債・純資産合計	582,655

6. ご協力をお願い

○ボランティア大募集！！

異オネットワークでは、一緒に活動し、学び高め合える仲間を募集しています！

- ・各種親の会、自助会、セミナーなどの企画・運営
- ・バックオフィス事務、助成金申請書類などの作成事務
- ・大津オルタナティブスクールトライアンプでの子どもたちとの関わり

(毎週水・金曜日)

【ボランティアさんの声】

オルタナティブスクールトライアンプは、いつも平和な空気が流れています。やりがいは、人見知りなお子さんとの距離が縮まっていくこと。話しかけてくれたりすると嬉しいです！



親の会のお手伝いをさせていただく中で、保護者の方々の悩みを自分の子育てと重ね合わせて考えたり、逆に保護者の方から新しい情報をいただいたりと、一方通行でなくお互いに学び高めあっている感じがいいなと思っています。



長く関わらせてもらっているお子さんの成長や変化、可能性を実感できて、スタッフや子ども達と一緒に喜び合えることが嬉しいです。こちらが教わることが多いです。



○ご寄付のお願い

当会は各種助成金をいただきながら運営しておりますが、まだまだ財政基盤が十分ではありません。今後さらに安定した運営をするためにも、ご寄付のご協力をお願いしています。特に、フリースクールに通おうと思っても、経済的な事情であきらめざるを得ない子どもたちのためにご支援をいただけたら幸いです。

① Paypal で寄付する

https://paypal.me/isainw?locale.x=ja_JP



上記ホームページの「送信」→金額を入力→「続行」→「今すぐ支払う」でお支払いください。

※PayPal のアカウント設定が必要です

② 口座振込で寄付する

【振込先】

滋賀銀行 本店営業部

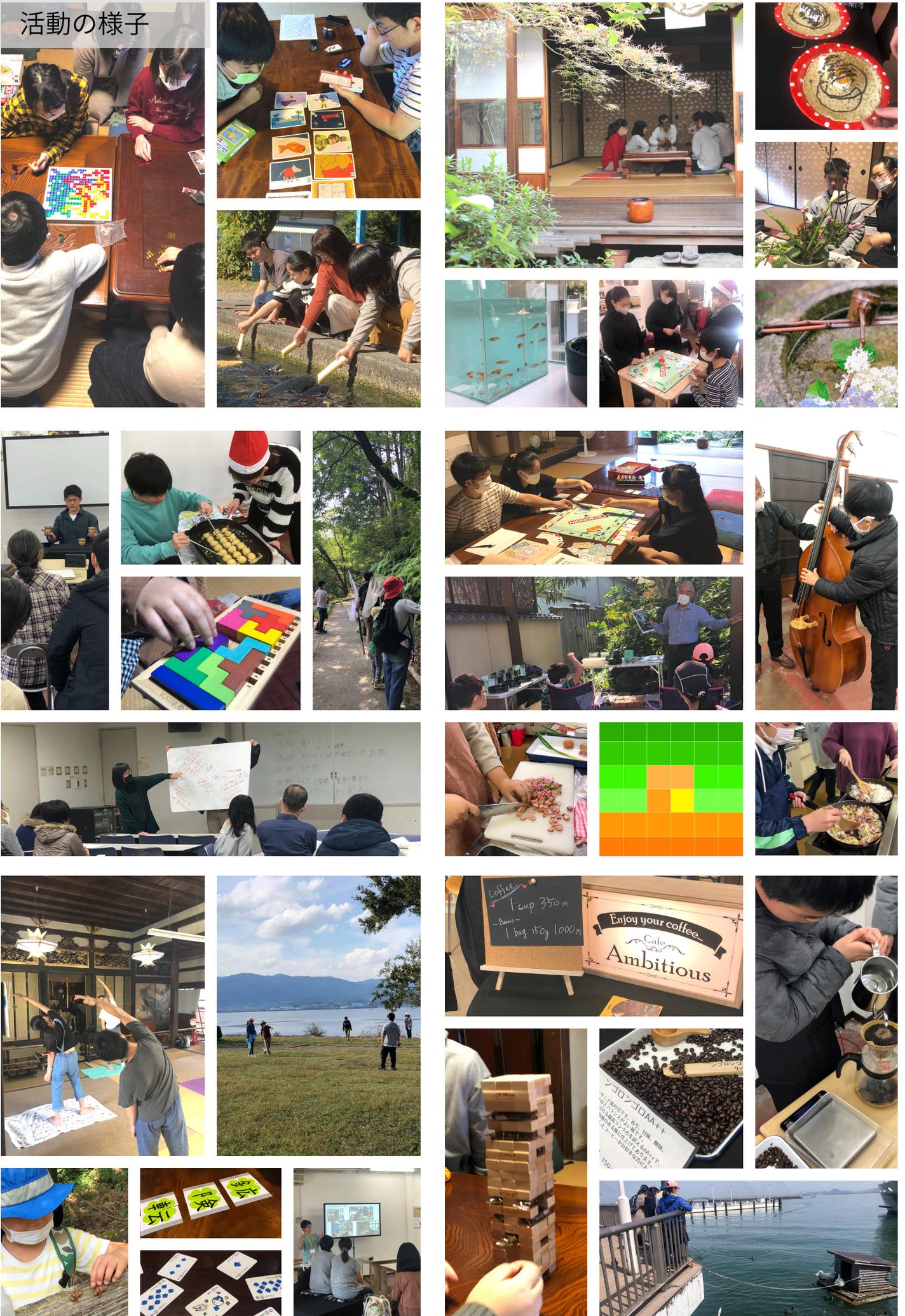
普通 623995

名義人：一般社団法人異オネットワーク

ご寄付いただきましたら、異オネットワークまでご連絡いただけますと幸いです。確認後、改めて御礼の連絡を致します。

【連絡先】 isai_nw@outlook.jp

活動の様子





一般社団法人
異才ネットワーク

 050-5374-0311

 〒520-0047
大津市浜大津4-1-1明日都浜大津
市民活動センターBOX51

 isai_nw@outlook.jp

公式Facebook



トライアンフ HP

